

寒さの中でも春の準備をしてきた梅の木が、しっかりとこの季節を覚えているかのように、花を咲かせ始めました。立春を迎えても、まだまだ寒い日が続きますが、それでも、どこことなく春の気配が感じられるこの頃です。

2月の異名「如月（きさらぎ）」の語源が、寒さが厳しいために衣を更に着ることから「衣更着^{きぬさらぎ}」であるという説はよくいわれていますが、草木の再生を意味する「生更木」や、陽気がさらに来る季節という意味で「気更来」とも言われています。いずれにしても、季節は確実に変わろうとしています。新型コロナウイルス感染症が話題にならない日はありませんが、何とかこの重い空気も季節の移り変わりとともに、少しでも早く過去のものになってほしいものです。



進路選択と1年のまとめ

いよいよ受験シーズンが到来しました。3年生は今、私立高校の受験がほぼ一段落し、県立高校の前期選抜試験が始まりました。それぞれの進路に向けて、これまでの積み上げが実るよう体調管理には十分に気をつけて、充実した日々を送ってくださることを願います。また、各学年では、1年のまとめの時期を迎えています。今月末には、学習成果を発表する場面も用意されており、それぞれの学年で、ゲストティーチャーを迎えての人権学習のまとめも計画されています。

ハンド男女 全国へ！！

ハンドボール部が、第47回県中学校ハンドボール選手権新人大会で男女ともに優勝し、3月に富山県氷見市で開催される全国大会に出場します。男子は2年ぶり3回目、女子は3年連続7回目の出場となります。

この1年は感染症対策に加え、大規模改修工事の影響で、運動場や体育館が使えない期間が長く、非常に制約が多い



年でもありましたが、その中での立派な成績は、まさに「あっぱれ！！」です。

いつも支えてくれる家族や地域の皆様への感謝の気持ちを忘れずに、そして、昨年、コロナ禍で残念ながら同じ大会が中止となり、涙をのむこととなった先輩の分まで大いに健闘してくれることを期待しています。

学校教育診断結果について

昨年末に実施いたしました『学校教育診断』にご協力いただきありがとうございました。集計結果については、本校のコミュニティスクール運営委員会にも諮り、全職員で共有するとともに、より良い学校づくりに向けての改善活動につなげて参りたいと考えています。

集計結果の詳細とそれぞれの項目の考察については、本校のホームページに掲載しておりますのでご覧ください。また、具体的にいただいたご意見やご要望は、職員で共有し今後の改善のために役立てて参ります。

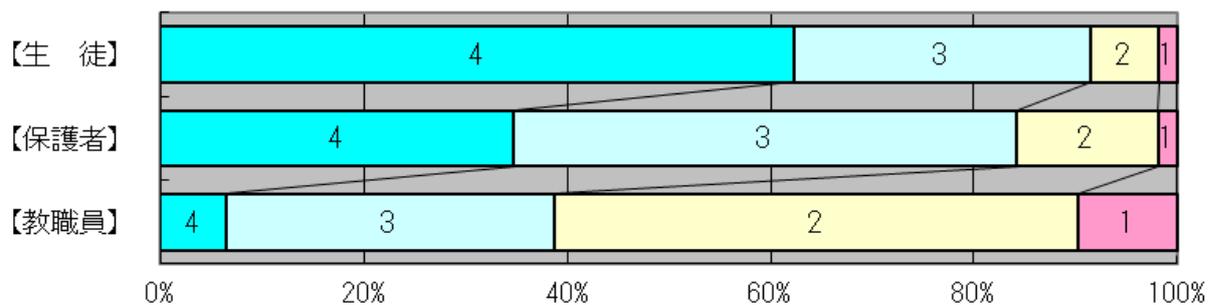
診断は昨年までと同様の質問項目で、その回答は、「できたと判断できること〔4〕・〔3〕」と「できなかったと判断できること〔2〕・〔1〕」を明確にするため、4段階評価を採用し、集計した平均値が4段階の中間値〔2.5〕以上の項目については「概ね良好」と判断します。

診断結果を数値上でみると、ほとんどの評価項目が、生徒、保護者、教職員とも「概ね良好」以上であり、昨年の値から大きな変化はありませんでした。

また、保護者の方の評価がほとんどの項目で昨年度比 0.1 ポイント上昇している反面、教職員が回答したほとんどの項目と、家庭や地域の連携に関する項目で、それぞれ評価が下がっており、コロナ禍での活動制限の中での教育活動の影響も少なからずあるものと思われます。ただ、その中で最も低い値を示したのが、今年も「充実した学校生活」のジャンルの「あいさつ」でした。

充実した学校生活（あいさつ）

【生徒】	学校や地域で、自分からあいさつをしている。
【保護者】	生徒は、学校や地域で自分からあいさつをしていると思う。
【教職員】	生徒は、学校や地域で自分からあいさつをすることができる。



グラフをみてもわかるように、生徒の自己評価は高いのですが、生徒と教職員の評価の差は大きいようです。生徒自身はあいさつしているという意識が確かにあります。地域の方からも「朝明中の生徒はいつもよくあいさつしてくれる」という声をききます。しかし、依然として教職員の評価が低いのは、全ての生徒に「自分からあいさつする」ことが浸透しているかということ、そうではないという意見が多いということです。

あいさつは人間関係をよりよくするための社会生活の潤滑油です。たんに「あいさつを返した」ということでなく、積極的に自分からあいさつできるといいですね。

☞ 「学校診断結果」の考察や意見の詳細については、学校ホームページをご覧ください。